

令和５年度学校自己評価表

鳥取県立米子東高等学校定時制課程

学校ビジョン	未来を拓く人財の育成		
中長期目標	1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。 2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。 3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。	今年度の重点目標	1 自己実現に向けた教育の充実 2 豊かな人間性の育成 3 社会人としての意識の高揚 4 働き方改革の推進

年 度 当 初					中 間 評 価 ・ 最 終 評 価	
評価項目	具体項目	現状	具体目標	目標達成のための方策	経過・達成状況・改善方策	評価
1 自己実現に向けた教育の充実	主体的な学びによる基礎学力の定着	○授業評価アンケート 「わかりやすい」 96.6% 「先生の熱意を感じる」 97.1% ○米東サポーター・特別支援教育支援員の配置により、落ち着いた学習環境を保っている。 ○授業でのICTの効果的な活用に努めた。 ○ループリックを活用した授業実践を行った。	○わかる授業を推進 授業評価アンケート 「わかりやすい」90%以上 「先生の熱意を感じる」90%以上 ○生徒の目標に応じた学習指導	○授業公開および授業評価アンケートを活用した授業改善 ○各教科でのループリックの活用とパフォーマンス評価の実施 ○ICTの効果的な活用・ICT活用研修会 ○米東サポーター・特別支援教育支援員の活用	○授業公開週間を設け、授業改善への意識を高めた。 ○7月実施の授業評価アンケートは、「わかりやすい」98%「先生の熱意を感じる」98%であった。 ○ループリックを活用した授業実践とパフォーマンス評価を導入し、ペーパーテストでは測れない生徒の資質・能力について評価するように努めている。 ○クロームブックの活用にも努めている、双方向授業への展開に課題があるので、教職員対象の「ICT活用研修会」を実施する予定である。 ○米東サポーターや特別支援教育支援員による授業サポートを計画的に行っている。	B
	特別支援教育の充実	○SCによる個人面談を実施し、生徒への適切な対応に繋げている。 ○生徒理解研修会、QU研修会、夕礼・終礼等で、生徒の状況、対応について職員間で共有し、必要に応じてケース会議も行っている。 ○外部機関と連携し、生徒の進路選択・進路決定に向けて、サポートを行っている。 ○不登校傾向の生徒について、SCによるコンサルテーションを実施したほか、SSWや市の子育て支援課と連携し、支援に努めた。	○教育相談体制、特別な教育的支援を必要とする生徒への支援の充実 ○教職員の特別支援教育に対する意識の向上 ○特別支援教育支援員の有効活用 ○要支援の生徒の情報共有	○全職員による生徒情報の共有並びに支援 ○特別支援教育支援員、SC、SSW、米東サポーターとの連携 ○QUの有効利用 ○特別支援教育支援員の支援活動計画の作成 ○特別支援教育に関する研修を実施	○保健室・相談部（SC・SSW含む）・特別支援教育支援員等と生徒情報を共有しながら指導や支援を行う体制を整えている。 ○特別支援教育支援員、米東サポーターの授業支援により、生徒の困り感の解消に努めるとともに、情報共有をして生徒理解に役立てている。 ○SCは全校生徒との個人面談を実施。必要な生徒にはカウンセリングを勧め、希望する生徒と合わせて継続的なカウンセリングを行っている。 ○コンサルテーションを定期的に実施している。また、SCを講師として生徒理解研修会、QU研修会を実施した。 ○SSWの定期訪問では、生徒の家庭環境や学校での支援についての検討会をSC、特別支援部、担任も交えて行っている。その結果を踏まえ、関係機関と連携をとって、支援に努めている。	B
	進路指導の充実	○3年次生に対し、継続的にCAによる個人面談を実施した。 ○面接練習や個別指導等に全教職員が関わった。 ○就職・進学ともに進路決定できない生徒がいた。 ○就職セミナー、地元企業・学校見学、進路説明会を実施した。 ○2・3年次生進学希望者に業者テストを実施した。 ○保護者懇談では、進路選択・進路決定に向け早い時期からの意識づけに努めた。 ○進路だよりを発行し、保護者に進路情報を伝えた。	○就職内定率及び進学決定率100% ○就職指導、進学指導の充実 ○進路意識の醸成	○LHR、進路講演会、個人面接による就職・進学に対する心構えの徹底指導 ○就職セミナー、地元の企業・学校見学の実施 ○CAによる進路指導講話、進路面談の実施 ○保護者への進路情報の充実	○進路LHRで、生徒に対して就職・進学の流れ・心構えを伝えた。 ○保護者に対しては、進路だよりおよび保護者懇談で進路情報等を丁寧に伝えた。 ○就職に関しては、生徒との個別面談を行い、面談をもとに職業紹介を行った。昨年度より早目に準備を進め、就職希望の9名中4名が内定している。（10月15日現在） ○進学に関しては進学希望の5名中1名が合格している。（10月15日現在）残り4名も個々の進路目標に向かっている。 ○就職セミナーでは面接と自己アピールのための講義・演習を行い学びを深めた。 ○地元学校・企業見学は、生徒の進路決定の参考になっており、昨年度の訪問先企業に内定した生徒がいる。 ○進路担当・CA・担任が中心になって全職員で、生徒との面接を行った。 ○9月に数回ハローワークと連携して面接練習・情報交換したことも効果的であった。	B
	キャリア教育の充実	○キャリア・パスポートを作成させ、講演会、様々な学習機会を捉え記録を残して活用した。 ○地元企業・学校見学を通して、生徒自身にキャリアデザインについて考えさせた。 ○生活時間調査の実施によって、進路意識を高め、生活習慣を見直すことができた。	○進路意識の早期啓発 ○キャリア意識の醸成	○キャリア・パスポートの活用 ○行事、講演会を通した生徒自身のキャリア意識の醸成 ○地域の問題について、考える機会をつくる	○「社会人に学ぶ」、「語り人@勝田町」、「地元の事業所・学校見学」を通して、進路意識を高めることができた。 ○「社会人に学ぶ」では、地元で活躍する本校の卒業生を招いて、講演していただき、働くことについての現実の厳しさと意義について学んだ。 ○年度当初の計画に従って、キャリアパスポートを作成させた。生徒は取り組んだことの振り返りに役立てている。	A

2 豊かな人間性の育成	生徒会・部活動の活性化	○鳥取県定時制通信制総合体育大会・鳥取県生徒会連盟大会に向けて、各部活動顧問と連携し、円滑な部活動運営を行った。 ○生徒会執行部会では、生徒が主体的に行事の企画運営を行った。 ○生徒の活動を学校だよりや学校ＨＰで伝えた。	○生徒会活動や部活動、学校行事への生徒の主体的な取組の推進	○生徒の主体的な活動の機会を増強 ○学校ＨＰの更新回数を増やす ○生徒会活動の推進	○毎週定例の執行部会を開き、生徒会行事の企画・運営を行った。執行部会が行えないときは、Google Classroomを活用して相談・連絡などを行った。 ○１０月下旬に開催予定の大運動会について、種目や組合せ等を議論した。現在は執行部一丸となって開催に向けて準備を行っている。 ○県定通総体では、部活動週間を設定して練習に励んだ。その結果、男子バレーボール部とバドミントン部女子１名が全国大会に出場することができた。	B
	興味・関心を喚起する体験的活動の実施	○コロナ禍においても感染症対策を講じ、アウトドア体験・地元の資源体験を実施した。 ○地元の資源体験は、新たに「松江散策」を実施した。	○地域に根ざした教育活動 ○体験的な活動による豊かな心の育成	○体験活動先との連携強化 ○新たな体験先の開拓 ○体験を通して、地域の魅力を伝える	○アウトドア体験（洋上体験・乗馬体験）では豊かな自然に触れ、級友と親交を深めた。活動の様子は学校のＨＰや学校パンフレット等で紹介している。 ○今後は『定通教育充実事業』として、地元の資源体験&美術鑑賞（とっとり花回廊での寄せ植え体験と植田正治写真美術館）、自然体験スキー実習、郷土食体験、テーブルマナー講習会等の体験活動を実施する予定である。	B
	人権感覚豊かな生徒の育成	○人権教育講演会を実施した。事後のＬＨＲで生徒相互の理解が深まった。 ○人権ＬＨＲおよび授業において、話し合い活動を行った。	○人権ＬＨＲの充実 ○各領域での人権意識の育成 ○お互いが安心できる集団の形成	○人権ＬＨＲの実施 ○自他ともに尊重できる生徒の育成	○人権ＬＨＲを前に、７月に人権アンケートを実施した。講演会などは、２学期に実施予定である。	B
	社会参画できる生徒の育成	○高等学校課事業や定通教育充実事業を通して、社会に対する理解を深めている。 ○授業や講演会等において、マナーについての理解を深めている。	○マナーを守り居心地の良い集団の形成 ○地域を理解し、地域の力になろうとする意識の育成	○生徒が人間関係づくりを学ぶ ○新たな事業による体験的活動の充実	○新しい事業である芸術鑑賞では、１１月に地元出身の写真家である植田正治写真美術館を訪れる予定である。	B
3 社会人としての意識の高揚	規範意識の醸成	○多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っている。 ○一部の生徒に規範意識の低さが見られるため、観察・指導を継続する必要がある。 ○職員間で生徒情報を交換、共有している。 ○挨拶をきちんとできる生徒がいる。	○落ち着いた教育環境の維持 ○問題行動発生件数３件以下 ○皆勤及び精勤１０名	○挨拶の励行、生徒への日常の声かけの実施 ○規律ある学校生活の徹底 ○教職員間の情報交換の実施 ○保護者との連携	○挨拶については、ほとんどの生徒がきちんとしてすることができた。 ○規範意識の低さがみられる一部の生徒については、継続的な指導が必要である。 ○４月下旬に指導案件が１件あったが、その後は基本的に落ち着いている。 ○始業時間の徹底と学校規則の遵守について継続して機会あるごとに指導する。 ○学校に気持ちが向かない生徒がおり、職員間で生徒の情報交換・共有を図り指導に役立てている。	B
	家庭との連絡の緊密化	○欠席や遅刻について、学校に連絡する習慣が身に付いており、無断欠席はほとんどなかった。 ○担任を中心に、こまめに家庭連絡を行った。 ○挨拶や言葉遣いに対して、意識の高い生徒がいる一方で、スマートフォンが手放せない生徒もいる。	○欠席の多い生徒に対する支援 ○保護者の学校理解を促進	○こまめな家庭連絡 ○特別支援部・保健部との連携 ○保護者面談の実施 ○学校ＨＰ等による学校の教育活動の発信	○不登校傾向にある生徒やその保護者に対して、個別に連絡を取るほか、ＳＣの面談を行うなどを行った。 ○欠席連絡をせずに１限目を欠課した生徒には、必ず電話連絡を行った。	A
	〔体〕育、〔食〕育の推進	○定時制夜間給食や「食」のアンケート、「食」の講演会において「食」に対する理解を深めている。 ○鳥取県定時制通信制総合体育大会、鳥取県生徒会連盟大会、生徒会企画定時制大運動会を実施した。	○生徒の健康に対する意識の向上 ○生徒の日常の生活習慣の改善	○「食」のアンケートの実施 ○生活時間調査の実施 ○定時制夜間給食の実施	○定時制夜間給食として、学校行事に合わせて食事を提供している。 ○生徒の食生活の改善に向けて、食べる喜びを感じることで食に対する意識を高めるように努めている。 ○生活習慣に関するアンケートの結果及び課題は、保健だよりや保健指導を通して生徒や保護者に対して周知した。 ○生活習慣に関するアンケートから出た課題の解決のための保健指導を、保健体育科・図書館と協力して実施した。	A
	よりよい学習環境の整備	○ゴミの分別に取り組んでいる。 ○清掃活動は主に７月・１２月・２月に実施した。 ○学習室のゴミ箱を生徒自ら管理させ、ゴミは各自で持ち帰る指導を行った。 ○通常は生徒が当番制で、行事の日は教職員が一斉に使用教室の消毒を行った。	○校内環境の整備 ○ＨＲの時間に生徒と教員で清掃活動	○ゴミの分別や減量化についての指導の実施 ○清掃活動の継続	○清掃月間にはクラス全員で普段使う教室の清掃を行った。 ○環境衛生検査を実施し、その結果を周知した。 ○定期的に換気を行った。	B
4 働き方改革の推進	業務の効率化	○コロナ禍にあったが、実施時期や実施内容を再検討してできる範囲で実施した。 ○主査と副査とが連携しながら分掌業務を行っている。 ○長期休業中は夕礼・終礼を行わない期間とした他、リフレッ週を設定した。 ○教育目標の達成を目指し、全教職員が連携している。	○円滑な業務の遂行 ○時間外業務の軽減	○計画的な事業の実施 ○分掌内における業務分担の見直し ○分掌内のフォルダ、ファイルの整理	○学事システムの導入により成績処理にかかる時間を削減できた。 ○主査の調整により、分掌全体での会議を減らして分掌業務を進めている。 ○各教員が計画的に業務にあたり超過勤務は始業時間前に少しある程度で終業時間後はほとんどない。 ○分掌のフォルダ、ファイルについては年度内に整理して、来年度の業務引継ぎに役立てる。	A

評価基準　Ａ：十分達成した　Ｂ：概ね達成している　Ｃ：取り組みはやや遅れている　Ｄ：方策の見直しが必要